



Future City Project

相鉄いずみ野線沿線

次代のまちづくり

イメージブック

はじめに 相鉄いずみ野線沿線 次代のまちづくりの取組とは

郊外住宅地に活力を生み出し、 自分らしい豊かなライフスタイルが実現できるまちを目指しています。

相鉄いずみ野線沿線は開発から約50年が経過し、各駅周辺では再開発や区画整理、駅前再整備などが行われ、相鉄新横浜線開業に伴い、新横浜や東京都心へのアクセスが改善されることで、来街者の増加や人口流入など新たな効果が期待されています。一方で、住民の高齢化や若年層の流出、インフラの老朽化など、横浜市の郊外が共通に抱える課題もあります。

横浜市と相鉄ホールディングス株式会社は、このような地域課題を解決することや、地域の魅力を高めていくために、2013年4月に、「相鉄いずみ野線沿線の次代のまちづくりの推進に関する協定」を締結しました。

新しいまちづくりを進めるにあたって、横浜市と相鉄グループの連携に加え、大学や地域の皆様と協力し、次代のまちづくりを進めるプロジェクト＝(Future City Project＝FCP)を立ち上げ、さまざまな取組を行っています。



二俣川



南万騎が原



緑園都市



弥生台



いずみ野



いずみ中央



ゆめが丘

まちづくりの取組姿勢

沿線にある魅力的な地域資源を活用しながら、
産官学民の連携・協働による取組を進めていきます。

●企業×行政×大学×地域の連携によるまちづくり

相鉄ホールディングス、横浜市、横浜国立大学、フェリス女学院大学で相鉄いずみ野線沿線における取組を産・官・学連携で進めるために2016年に四者連携覚書を締結。

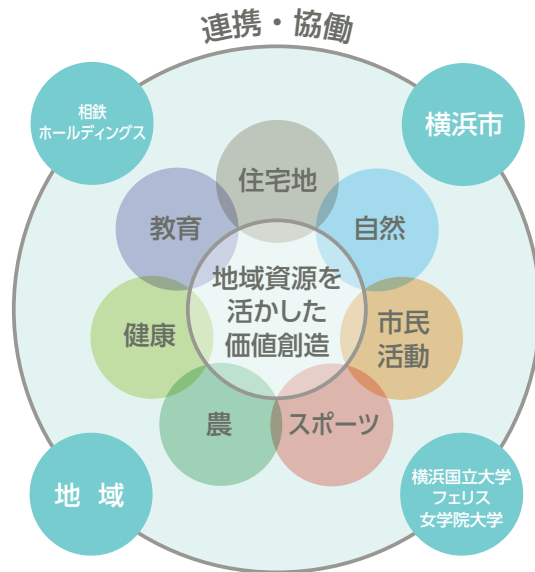
沿線にお住まいの皆様や、企業、行政、大学がパートナーとして連携・協働しながら、主体的にまちづくりを進めています。

●沿線の地域資源を活かした価値創造

沿線に存在する「市民の方々が持つ豊富な知識や経験」、「豊かな自然環境」などの多様な地域資源や、「横浜や、東京方面への良好なアクセス」を最大限に活用しながら、まちの価値創造を行っています。

●持続可能なまちづくり

「SDGs未来都市・横浜」の主要な取組である「持続可能な住宅地モデルプロジェクト」のひとつとして「相鉄いずみ野線沿線地域」を位置づけ、地域課題の解決に取り組み、持続可能なまちづくりを行っています。



横浜市、相鉄いずみ野線沿線の現状

住宅地開発から約50年

相鉄いずみ野線沿線の開発は、1976年に、旭区から泉区にまたがる二俣川駅～いずみ野駅間の開通を皮切りにはじまりました。高度経済成長期に横浜市への急速な人口流入が進むなか、良好な住環境を整備するため、沿線各所で区画整理事業が施行されました。それから約50年が経過し、現在、沿線には「活発な市民活動」や「豊かな自然と農地」など、地域資源が豊富で、都心へのアクセスや駅前施設の利便性が改善され、成熟したまちへと発展しました。

高齢化が進み、生産年齢人口の減少が見込まれる

急速な人口流入から、歳月がたち高齢化が進んでいます。

横浜市の高齢化率(65歳以上の人口の割合)が25.3%に対し、旭区の高齢化率は30.4%、泉区の高齢化率は29.6%と市内でも高くなっており、今後も上昇すると推測されています。

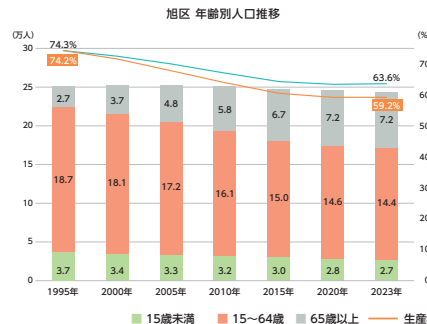
生産年齢人口(15歳～64歳)比率については、緩やかに下がり、2023年3月時点で旭区59.2%、泉区59.7%となり、今後も減少が見込まれます。



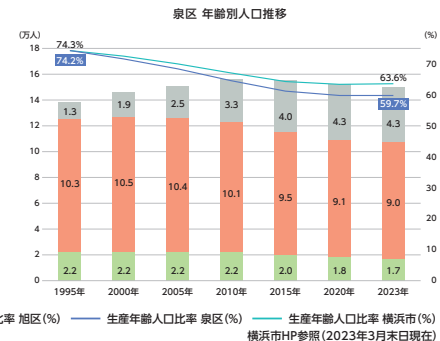
開業間近のいずみ野線といずみ野駅(1976年3月撮影)

区別総人口に占める 65歳以上の人口割合順位		
	行政区	(%)
	横浜市	25.3
1位	栄区	31.4
2位	金沢区	30.9
3位	旭区	30.4
4位	泉区	29.6
5位	港南区	29.4

横浜市HP参照(2023年1月1日現在)



15歳未満 15～64歳 65歳以上 生産年齢人口比率 旭区(%) 生産年齢人口比率 泉区(%) 生産年齢人口比率 横浜市(%)



横浜市HP参照(2023年3月末日現在)

まちづくりの視点（コンセプト）



地域経済の循環により 豊かな価値を創るまち

豊富な地域資源を活用し、農・工・商が重なりあう6次産業化や、コミュニティ・ビジネスなどにより、豊かな価値を創り出しながら、地域経済が循環していく自立型のまちへと変えていきます。



多様なサービスが連携する ヨコツナギのまち

地域の中で、福祉や医療、介護だけでなく、スポーツや自然資源などを積極的に連携させていき、多世代が豊かにくらすことのできるまちをつくっていきます。



複合型ライフスタイルによる 支えあいのまち

シェアや近居のような、支えあいを生む新しい住まい方や、地域資源を活かした郊外の新しい働き方、積極的に地域に貢献するようくらし方など、人と人との支え合いを促す複合型のライフスタイルを展開していきます。



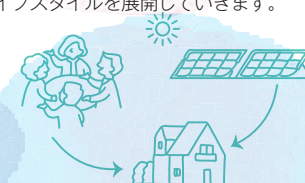
生活創造都市づくりによる チャレンジのまち

地域の中でクリエイティブな活動をすることができたり、今までのまちにはなかった生活にチャレンジできるなど、さまざまな主体の協働によってまちの魅力を生み出していきます。



地域内移動の活性化による 楽しいまち

地域内モビリティや自然が感じられる遊歩道など、地域内での小さな移動などが楽しく気軽にできるようにしていくことで、地域のさまざまな場所で人や活動をつなげていきます。



持続可能な仕組みによる 安心・安全なまち

コミュニティの活性化や防災機能の強化、再生可能エネルギーの地産地消など、安心して日常生活を送ることのできる持続可能な地域マネジメントの仕組みを生み出していきます。

お住まいの皆様にはよりくらしやすく、
これからお住まいになる方々にはくらししてみたいと思える、みらいのまちの7つのイメージです。

1 多世代が交流できる
新しいまちへ

多世代



2 多様な人材にとって
働きやすいまちへ

働く



3 交流を通して、地域
貢献につながる取組が
生まれるまちへ

交流



4 豊かな学びと子育てが
できるまちへ

学び・子育て



5 誰もが日常の生活の
中から健康づくりが
できるまちへ

健康



6 暮らしを支える持続
可能な仕組みが
あるまちへ

仕組み



7 脱炭素を通じて地域の
魅力を高める環境に
優しいまちへ

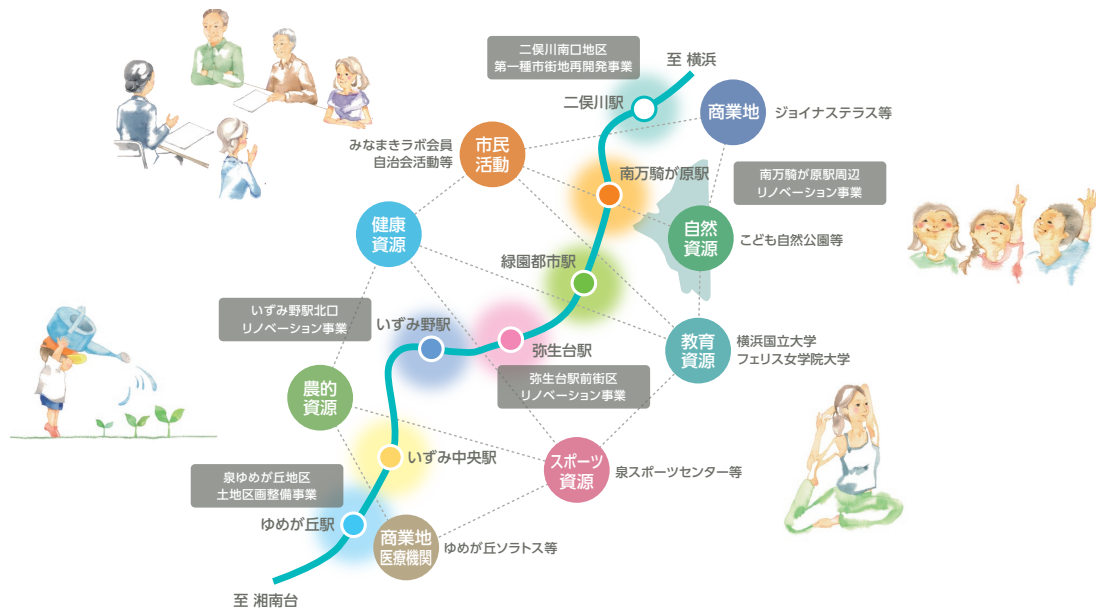
環境・脱炭素



それぞれのまちの魅力

点から線、そして面へ

相鉄いずみ野線沿線には、それぞれの地域にさまざまな地域資源があります。また、駅前再整備によって新たなまちの魅力が生まれています。



次代のまちづくりの取組では、元々ある地域資源と新たなまちの魅力を掛け合わせながら施策をおこない、それらをつなげるにより、点から線、そして面の取組にすべく、みらいに向けたまちの暮らしを提案し発信していきます。

まちづくりの取組-1

駅前再整備

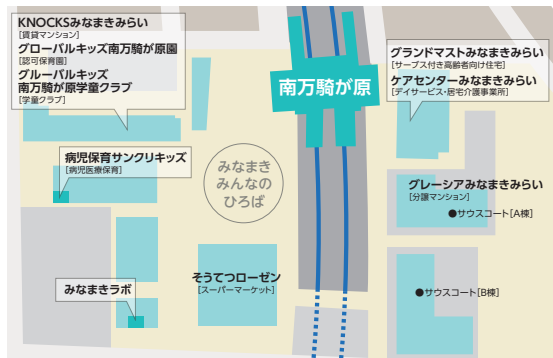
相鉄グループのグループビジョン“Vision100”に掲げられた沿線開発プロジェクトの1つ、「いずみ野線駅前街区リノベーション計画」等を実施しました。

南万騎が原駅周辺リノベーション事業時に、賃貸マンション、サービス付き高齢者向け住宅、分譲マンションを整備し、エリア内の戸建て住宅に住む高齢者や地域外の若年層を誘致し、世代間の住み替え循環を促進しています。



よこはま多世代地域交流型住宅 第1号に認定

多世代が安心して地域で住み続けられるよう配慮した住まいが整備され、介護・医療施設、日常生活を支える商業施設やサービスなど住みやすい環境が整っています。



地域交流イベント

再整備された相鉄いずみ野線沿線の駅前広場を活用し、地域の魅力発見、魅力発信や出演団体、参加者同士の交流によるコミュニティの活性化を目的にイベントを開催しています。



地域住民主体の活動

みなまきラボの活動

自分の得意を生かして、まちづくりにかかわりたい地域の方が「みなまきラボ会員」として、ラボ内で定期的に活動しており、多世代交流を生む場となっています。



子どもの本の無料貸出



フラワーアレンジメント

緑園えきばた会議

緑園にお住まい、お勤め、地域で活動されている方を募集して、「緑園の魅力を高める！」をテーマにワークショップ『えきばた会議』を行いました。



まちづくりの取組 -2

■教育機関との連携

スーパー給食

いずみ野小学校では、2012年度から地域の農畜産物だけで、地元横浜の料理人が献立を考えて給食を提供する「スーパー給食」を実施しています。これらの取組は、地産地消を推進し地域の魅力を発信するとともに、小学生、農家、料理人などとの交流を深めています。



【写真】タウンニュース泉区編集室提供

出張授業

次代を担う子どもたちを地域で育むことを目的に、さまざまな教育機関との連携による出張授業を展開しています。

相鉄いずみ野線沿線の近隣の学校との校外学習として、相鉄いずみ野線沿線のまちづくりをテーマにした講義や、南万騎が原駅周辺の見学による授業などを実施しています。



■自己実現の場と機会の提供

小商いを含む地域の方の活動の場・働く場として、みなまきTRY STAND・弥生台TRY BOXを運営しています。

出店者同士が繋がりコラボ出店(同時出店)が実現したり、こちらでの活動から駅前イベントへの出店に繋がるなど新たな挑戦が生まれています。



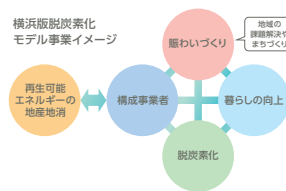
みなまき TRY STAND



弥生台 TRY BOX

■脱炭素化の取組

相鉄いずみ野線沿線は「脱炭素化」と「地域課題の解決・賑わいづくり」を一体的に推進する横浜版脱炭素化モデル事業として相鉄南万騎が原第4ビル屋根上で発電した再生可能エネルギー電力(再生エネ電力)を商業施設内やイベント等で活用することでCO₂排出量の削減に寄与し、脱炭素社会の実現に取り組んでいます。



■産官学による事務局運営

企業、行政、大学、時には地域住民が加わり、より良いまちづくりに向けた企画や運営を行っています。



活動の変遷（年表）

2013年	「相鉄いずみ野線沿線の次代のまちづくりの推進に関する協定」を締結 (横浜市と相鉄ホールディングス株式会社)
2014年	緑園都市駅前「えきばた会議」ワークショップ開催 相鉄ライフ いずみ野 リニューアルオープン いずみ野駅前「いずみ野マルシェ」初開催
2015年	いずみ野駅北口リノベーション事業竣工 「イメージブック 2015」発行
2016年	「相鉄いずみ野線沿線の次代のまちづくりの推進に関する四者連携覚書」を締結 (相鉄ホールディングス、横浜市、横浜国立大学、フェリス学院大学) 相鉄ライフ 南まきが原 リニューアルオープン 相鉄いずみ野線沿線のまちづくり拠点「みなまきラボ」オープン 「みなまきみんなのひろば」「みなまきラボ」グッドデザイン賞受賞 「みなまきみんなの木プロジェクト」ウッドデザイン賞受賞
2017年	相鉄ライフ やよい台 リニューアルオープン 出張授業・いずみ野小学校「スーパー給食」実施協力 南万騎が原駅前「みなまきピクニック」初開催 南万騎が原駅前「みなまきひなまつり」初開催
2018年	二俣川南口地区第一種市街地再開発事業竣工 弥生台駅前「やよい祭」初開催 緑園都市駅前「緑園街マルシェ」初開催
2019年	南万騎が原駅周辺リノベーション事業竣工 弥生台駅前街区リノベーション事業竣工 みなまき TRY STAND オープン
2021年	弥生台 TRY BOX オープン
2022年	南万騎が原駅前 地域住民企画「みなまきハロウィンパーティ」初開催
2024年	南万騎が原駅前 相鉄南万騎が原第4ビル「自家発電型太陽光発電システムの導入」 「ゆめが丘ソラトス」オープン



相鉄ライフいずみ野



みなまきラボ



「みなまきみんなの木プロジェクト」
ウッドデザイン賞受賞



みなまきピクニック



みなまきひなまつり



やよい祭



緑園街マルシェ



みなまきTRY STAND



弥生台TRY BOX



弥生台駅前街区



南万騎が原
太陽光発電システム



ゆめが丘ソラトス

凡 例
ソフトの取組
(イベント等)
ハードの取組
(施設整備等)

住みたいまち、住み続けたいまち、次代のまちづくりの実現へ！

横浜市と相鉄グループは、地域の資源や魅力を最大限に活用し、さらに生み出すことによって、みなさまにいっそう愛される「相鉄いずみ野線沿線のみらい」を創造していきたいと考えています。

今後さまざまなまちづくりの取組を通じて、沿線にお住まいのみなさまが、楽しく快適に生活できることはもちろんのこと、次代を担う子どもたちを地域で育み、成長した後も地域に愛着と誇りを持てるような、誰もが住みたいと憧れるまちとなるようにチャレンジしていきます。

「ひと」と「ひと」とがつながり、みらいへの夢を語り、楽しく安心して暮らせるまちを一緒に作りませんか？





住み替え循環と人の交流促進

これまで、国土交通省の「住宅団地型既存住宅流通促進モデル事業(※1)」において、住み替えやまちに必要とされる機能に関する意向調査を行ってきました。今後はこの成果をもとに、駅前の再整備に合わせ、地域に必要とされる機能の導入、多様な世代が住むことのできる住宅の供給を行い、郊外住宅地の中で住み替えの循環を促進していきます。

この取組は、郊外住宅地の課題を解決するモデルとして、社会的意義の大きさを評価され、国土交通省の「スマートウェルネス住宅等推進モデル事業」(※2)として採択されました。

あわせて、自然資源が豊かな環境を活かしつつ、住宅地の中に新しい機能を付加し、それらを繋いでいくことで、住宅地の賑わいを創出し、人の交流を生み出していきます。

※1 高齢化等により空き家が現に発生し、また、発生が見込まれる郊外型住宅団地を対象として、既存住宅の流通・活用等を通じた空家の解消、地域の活力維持・再生を促進するモデル的な取組を支援する国土交通省のモデル事業です。

※2 多様な世代が交流し、安心して健康に暮らすことができる住宅を実現するため、先導的な住まいづくりの取組を支援する国土交通省のモデル事業です。

地域の特徴

先導的なまちづくりと豊かな自然の2つの顔を持つ、明るく開放的なエリアです。

広い庭やゆとりのある間取りなど特徴を持った、ゆったりとした大きい区画の住宅街を抜けると、豊かな自然資源があることも自然公園や、駅の近くにある柏町市民の森があります。



良質な住宅地



柏町市民の森：南万騎が原駅西側に広がる1.9haの雑木林を整備。2015年9月に開園しました。南側の散策エリアと北側の自然保護エリアからなります。

住み替えモデルの推進を通じた、多世代が交流できるまちづくり

■みなまきピクニック

「地域にはみんなが一体になれるおまつりが必要だね」というお住まいの皆様の一言から始まった、みなまき最大のひろばイベント。マルシェ・ステージを中心に、シンボルイベントとして今年は何が必要かお住まいの皆様同士で話し合いながら企画・実施し毎年進化を遂げています。



©tetu kimura



©tetu kimura

■みなまきひなまつり

みなまきひなまつりは、駅前ひろばを中心に隣接するサービス付き高齢者向け住宅、学童クラブ、みなまきラボを会場として、みなまきにお住まいの皆様による、さまざまなコンテンツを通して三世代交流を図るイベントです。

ひろばの特徴である階段をひな壇に見立てたひな人形飾りの圧巻の光景がひろばに出現します。



©tetu kimura



©tetu kimura

■みなまき一箱古本市

おすすめの本を持った「店主さん」が集い、本と人、人と人とのコミュニケーションを楽しむ一箱古本市。本の文化が根付くよう、会場や開催期間・運営方法などをお住まいの皆様と検討・試行しながら開催しています。



■New-New Townプロジェクト

みなまきを舞台に郊外住宅地の可能性を拡げていくことをミッションとした横浜国立大学の地域課題実習プログラム。都市科学部生をはじめ、有志のメンバーが集まり、マップづくりや空き家の期間限定拠点活用、お住まいの皆様との紹介図鑑の作成などその年ごとに活動テーマを決め、実行しています。



■小学校連携

近隣の小学校と連携して、地域の魅力を広めるイベントを開催しました。

児童たちは、総合的な学習の時間に訪れた「みなまきラボ」での体験をきっかけに、「万騎が原の食や農業、歴史」をテーマに、南万騎が原駅前広場やみなまきラボを活用し、自ら企画したイベントを実現しました。

今後も、次代のまちづくりに貢献する子どもたちの支援や、産学連携による地域の魅力を広く発信していきます。





えきばた会議「12のアイデア集」実現第1弾
第2回街力カフェから、多世代が交流できる緑園街マルシェにパワーアップして実施

地域主体の持続可能なまちづくり

この地域では、これまでもさまざまな団体によるまちづくりの取組が活発に行われてきました。

2014年3～5月には、それらの取組が相互につながり、さらに地域の魅力を高めることをテーマとして、

市民ワークショップ「えきばた会議」を開催しました。そこから生まれた12のアイデアの内容を具体化していくことで、企業・行政・大学・地域が、地域の課題に対して協働で取り組むきっかけづくりを行い、地域主体の活動を持続可能なものにし、コミュニティの活性化を目指していきます。



緑園都市のまちなみ

地域の特徴

建築家によってデザインされた統一的な街並と充実した教育・文化拠点エリアです。

駅から数分の場所には、フェリス女学院大学があります。

緑園都市エリアには、自治会をはじめ、地区活性化委員会、緑園都市コミュニティ協会(RCA)など、さまざまな市民によるまちづくりの取組が行われています。



緑園都市駅前



四季の径



フェリス女学院大学 緑園キャンパス

企業・行政・大学・地域が協働して地域課題に取り組むまちづくり

えきばた会議から生まれた 「12のアイデア集」

緑園都市エリアに暮らしている人、勤めている人、地域活動を行っている人などから参加者を募集し、「緑園の魅力を高める!」をテーマに、2014年に、ワークショップ「えきばた会議」を行いました。参加者によって語られたアイデアは、「12のアイデア集」としてまとめられました。その中から、具体的なプロジェクトが実際に始まっています。



12のプロジェクトアイデア

■緑園街マルシェ

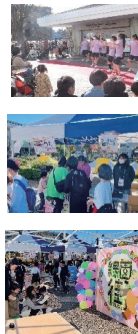
えきばた会議「12のアイデア集」実現第1弾として2014年に「街カフェ」がスタートしました。

現在は「緑園街マルシェ」としてパワーアップし、地域で活動するハンドメイド作家や団体の皆様のブース出店や近隣の幼稚園・保育園から大学まですべての世代がステージに参加いただき、多世代にお楽しみいただけるイベントになっています。

フェリス学院大学との連携もあり、例年、企画段階から地域の活性化に興味を持つ学生有志の方々に参加いただき、7月から約5ヶ月に渡り準備を進め、その中で発案された学生ならではのアイデアを取り入れ、地元有志の方々にアドバイスやご協力をいただきながら開催しています。



緑園街マルシェ



■緑園学園との連携

緑園都市駅周辺の学校と連携し、生徒への授業の協力や地域の魅力発信をしています。

小中一貫校の義務教育学校緑園学園では、社会科授業の中で「横浜市のまちの課題」について探求学習を行っています。生徒からの参加呼びかけにより、まちづくりを行う企業の立場として参加し、生徒の発表を聞いて意見交換をしました。その際、生徒が作成した「相鉄線 こどもと遊べるスポットマップ」を沿線駅に掲示する等、連動して地域の魅力発信を行っています。



「相鉄線 こどもと遊べるスポットマップ」掲示風景



再整備により新たに歩行者空間としてアーケードが設けられた駅前

医療と食、コミュニティを軸に日常生活をサポート

リノベーションのコンセプト

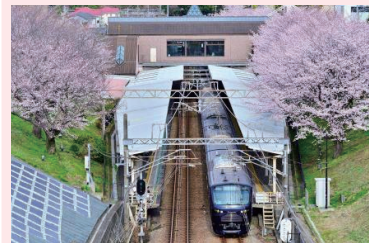
2017年に駅前街區のリノベーションを行い、「ココロ・カラダ・はぐくむ」をコンセプトにした商業施設「相鉄ライフやよい台」には、国際親善総合病院のサテライトクリニックを併設しました。また、「カフェと書店併設」の賃貸マンション「KNOCKS横浜弥生台」や自転車駐車場用地を再整備した「KNOCKS弥生台 桜テラス」を新築し、地域住民の生活の中心となる空間づくりを行っています。

また、「地産地消」の取組など、地域に根ざした「こだわり」を持った地元の名店の紹介や新たな名店の誘致を行い、沿線のブランド価値を推進する「相鉄沿線名店プロジェクト」の取組として、「レストラン ベタル ドゥ サクラ」や「和食 蒼」を誘致しました。

地域の特徴

弥生台駅のホーム両サイドには、桜が植えられており、春になると桜が駅舎を覆うように満開になる素敵なスポットがあります。

自然の森を活かした公園や保育園・幼稚園・病院・スポーツセンターがそろったエリアです。



弥生台駅



相鉄ライフやよい台前広場



相鉄ライフやよい台前通路

桜と緑に包まれた心地よい暮らしを育むまちづくり

■やよい祭

相鉄線沿線の高校や地域活動団体、スポーツセンター、駅前の各テナントと連携し、相鉄いずみ野線沿線の魅力の中の、「健康」「スポーツ」(大きく捉えた「食」「医療」も含む)をメインのテーマにブース出展やステージイベントを開催しています。



■KNOCKS弥生台 桜テラス

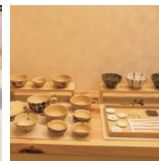
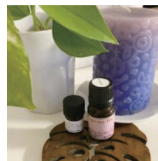
横浜市が所有する弥生台駅北口自転車駐車場用地について、駅直近の立地を活用すべく、事業者公募が行われました。

その結果、同地区への居住を推進するための賃貸マンションが提案され、自転車駐車場の機能を残しつつ、新たにシェアサイクルや太陽光発電も取り入れられ、2024年に入居が開始されました。



■弥生台 TRY BOX

みなまきTRY STANDに続く、第2弾として、弥生台に同様の拠点を設けることで、エリアの価値向上のみならず沿線全体へと効果を波及・拡大させていくために誕生しました。「やってみたい!」が叶う場所。地域の皆様が大活躍しているチャレンジスポットです。



■相鉄沿線名店プロジェクト

相鉄線沿線のブランド価値を向上させる取組で、「地産地消」や「こだわり」を持つ地域に根ざした名店の紹介や新たな名店の誘致などを行っています。



和食 蒼



レストラン ベタル ドゥ サクラ



第5回いずみ野マルシェ
「相鉄ライブいずみ野」前の広場を会場に泉区産野菜の販売や試食品の提供などを実施

地域資源を活用した住宅地の魅力づくり

駅前整備に合わせ、地域ケアプラザなど、地域に必要とされる機能の導入を行うとともに、農地などの地域資源を活かした取組を行う場を用意することで、地域の魅力を発信する仕組みづくりを行っています。併せて、いずみ野小学校でのスーパー給食などのさまざまな地域資源を活用した取組との連携を進めています。これらの取組により、地域の魅力を高め、若年層を呼び戻し、地域の魅力づくりを図ります。



第11回スーパー給食(2023年11月)



スーパー給食での児童たちのプレゼンテーション風景

【写真】タウンニュース泉区編集室提供

地域の特徴

多彩な農資源が身近にあるいずみ野駅では、近接して広がる農地に、さまざまな作物(米・野菜・果樹など)が栽培され、畜産も酪農も行われています。

農家による直売所も多くあり、いずみ野マルシェでは、泉区産野菜の販売や試食品の提供もあります。

農を活かしたまちづくりが活発に行われているエリアです。



駅に近接して広がる農地



地元農家の採れたて野菜



いずみ野マルシェ

多彩な農資源を活用したまちづくり

■いずみ野駅前リノベーションプロジェクト

駅前の商業施設「相鉄ライフいずみ野」は、多様な世代の交流をコンセプトとし、地域の豊かな資源を活かした、新たなライフスタイルを提案していく、地域密着型施設として地域ケアプラザや保育施設など、地域に必要な機能を導入し、地域の交流を促す駅前の拠点です。

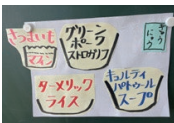


相鉄ライフいずみ野

■いずみ野小学校 スーパー給食

駅北側に位置する「いずみ野小学校」では通学区域内に農家が多く、子どもたちが「学び隊」として近隣の農家のご協力のもと野菜を育てています。さらに、給食を通じて、食に関する知識を高め、食の重要性を知ることなどを目的に、子どもたちや地元の生産者が育てた農畜産物を使い、「スーパー給食」を実施しています。横浜の地産地消を進める「濱の料理人」に地元の食材による献立を考えてもらい、給食調理員が調理員室でレシピに従った給食を作り、小学生が地域の農家の方や料理人の方々などと一緒に給食を食べます。

この取組は2016年度から、「相鉄いずみ野線沿線次代のまちづくり」と連携して実施し、地元産食材の提供等に協力しています。



【写真】タウンニュース泉区
編集室提供

■いずみ野マルシェ

泉区産野菜の販売や、それを使った料理の試食を行うマルシェを定期的の実施することで、地域の魅力の発信やコミュニティの場作りに貢献しています。

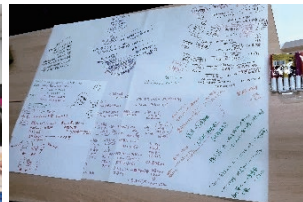
また、フェリスエコキャンパス研究会とヴィ・ド・フランスとのコラボレーションによるパンの販売などを併せて行うなど、沿線他地域の活動主体と積極的にコラボレーションする取組を進めています。



■食と農の取組

地域資源を活かした魅力づくりに向けた相鉄いずみ野線沿線の「農」を活かしたまちづくりの施策の推進を始めました。

地域の食や農(産業・教育・子育て・まちづくりなど)に係る関係者の方々の思いをお聞きし、さまざまなアイデアを基に地域の方との連携を図りながら取組を進めていきます。



横浜 食と農のフォーラム



相鉄いずみ野線沿線 次代のまちづくりイメージブック
発行
横浜市 / 相鉄ホールディングス株式会社
2015年11月発行・2016年3月改訂・2024年3月改訂

